

# 若若竹

~WAKATAKE~

第42号

2011/11/1発行

今年度に入って半年が過ぎました。1年生は白陵の生活に慣れてきたころと思います。2年生は「先輩」としての振る舞いも堂に入ってきたころでしょうか。3年生は最高学年としてふさわしい言動が自然にできるようになってきましたか。

中学部のみなさん、今年度はあと半年弱です。先輩の振る舞いをお手本に、自らの成長を発揮してください。

## 『神様からの試練』

城谷公美先生（中2の1担任：国語）



「神様は乗り越えられない試練をお与えにならない」

ドラマで出てきた言葉なのだが、妙に心に響いた。人は人生の中で、いくつかの試練にぶつかることがある。

十年前、私は一度、白陵を結婚退職している。大学生時代から付き合い合っていた彼と結婚し、幸せいっぱいだったその一週間後、彼は突然亡くなった。その現実がなかなか受け入れられず、しばらくは

「誰も私の気持ちなど分かるまい」と自分の殻に閉じこもっていた。家族といるのも辛くて、二が月間、家族と離れて一人過ごした。しかし、そんな私に、家族や大学の先輩、白陵の先生方、友人たちが、絶妙な距離感でそっと寄り添ってくれていた。そのおかげで、私は自分の心に無理をさせることもなく過せた。その間は私にとって「悲しみ」と向き合う大切な時間となった。

それから、何をするわけでもなく過ごしていた時、特別支援学校の寄宿舎指導員に来ないかという話をもらった。そこは、肢体が不自由な子どもたちが親元を離れ、寄宿舎生活をしながら通う学校だった。そこでの彼らとの出会いが、私の目を覚まさせてくれた。彼らは、たくましく明るかった。嘆いたり、自身を哀れんだりせず、ましてや、人生を投げ出したりせず、苦勞も辛さも喜びや楽しさと同じように、すべて自分のものとして生きているように思えた。そう思うと、途端に、自身を哀れみ、生きることに消極的だった自分が情けなくなった。そして、恥ずかしくない生き方をしなくてはいけないと思った。また、すべてを承知し黙って支えてくださった周囲の方々への感謝の気持ちでいっぱいになった。

試練が訪れたとき、結局、乗り越えるのは自分にしかできないことだ。自分の「苦しみ、悲しみ」は他人に分かることはない。孤独な闘いだ。そんな中で「苦しみ、悲しみ」と向

き合い、受け入れるのはなかなか難しい。ましてや、独りで…と思うと打ちのめされてしまう。でも、本当は孤独ではないはずだ。孤独と思っているのは自分だけで、くじけそうになる自分にそっと寄り添い支えてくれる人たちはいる。だから、自分の中にある「苦しみ、悲しみ」と恐れず向き合い、それをも自分のものとしてしまおう。辛いけれど、苦しいけれど、その分、自分を強くしてくれる。

中学生の皆さんの中には試練にぶつかっている人もいるだろう。でも大丈夫。あなたは孤独ではない。だから、時間がかかってもいいから、その試練に向かって行ってほしい。

「神様は乗り越えられない試練をお与えにならない」のだから。



## ベルマークだより

### ベルマーク

1位	J2-2	6902.6
2位	J3-3	3292.5
3位	J3-1	2990.1
4位	H3-1	2920.0
5位	H1-1	2101.5
6位	H1-3	1818.0
7位	H1-5	1602.6
8位	J1-1	1592.2
9位	H3-2	1534.4
10位	H2-1	1462.1

### インクカートリッジ・リボン

1位	H1-4	1020
2位	J3-4	1005
3位	J2-2	995
4位	H3-2	740
5位	J1-1	640

今回の回収で、  
ベルマーク48030.8点  
分が集まりました。  
皆さん、ご協力、本当に  
ありがとうございます！！

## 中3 修学旅行

### 秋芳洞と秋吉台

一日目。一番最初に向かったのが「秋芳洞」。「三億年のタイムトンネル」という名のパネル展示をほぼ素通りしながら秋芳洞の中に入った。中はとてもヒンヤリしていて、天井から水がポトポト落ちてきた。自然の中にいるような気がしてなごんだ。いつも写真で見ていた百枚皿が目の前に現れたときは本当に感動した。水の音が凄くて、外まで水が流れていて秋芳洞を抜けてもまだ綺麗な景色が続いていた。その後の秋吉台も見たことのないような広大な草原が広がっていて、自然の大きさを実感した。一日目からビッグイベントだったと思う。

(大崎大輝)



### 松下村塾



初代内閣総理大臣である伊藤博文、陸軍総帥である井上馨など、長州出身の偉人が明治時代を作りあげたことは有名です。そのような彼らを育てていった人が吉田松陰で、僕たちが今回いったところは彼を祀っている松陰神社です。この神社で僕たちは御参りをしたり、建造物などを見たり、とさまざまなことをしたわけですが、その中でも特に印象に残ったのが松下村塾だと思っています。学校の教室よりもずっと小さい部屋でたくさんの生徒に

明治の思想を育てていたと考えると、心にくるものがありました。先生は松陰を出来れば超えてほしいと言われましたが、僕も彼に近づけたらと思います。(得能正史)

### 桂小五郎と高杉晋作

萩出身の偉人、木戸孝允と高杉晋作。今回の修学旅行で国指定史跡として残る二人の生家を訪れました。幼少の頃より私塾に学び、この地で高い志を持ち暮らしていたのかと思うと感慨深いものがありました。授業や本で学習していましたが、実際に足を運び今より不自由で生き難かったであろう時代にも世界に目を向け、日本を変えようとした人達がいたことを改めて知り、豊かな時代を生きる私自身も刺激を受けました。奇兵隊を結成した高杉晋作、薩長同盟を結んだ木戸孝允。歴史上に名を残した二人の偉業を見習い、失敗を怖れず新しい事にどんどんチャレンジし、自分の将来なすべき事をみつけていきたいです。(玉田菜那)



## 阿蘇山と草千里

地理好きの僕にとって、阿蘇は興味深い場所の一つである。世界最大級のカルデラ、などと国内で世界レベルのものはそうたくさんない。期待を抱き現地へ。行く途中は普通の山と大差なかった。が、そのイメージは一面の草原を見て、噴火口へ登ると一変。写真にはない、生の景色、生の臭いを感じられた。しかも、噴火口にたまったエメラルドグリーンの水はバスガイドさんも驚くほど鮮明だったそうだ。本当に幸運だった。記録より記憶に残る見学にできたと思う。



P.S.阿蘇には、日本一駅名が長い（かな文字22字）駅があります。（福永隼也）

## 熊本城



二日目に行った熊本城は、昼食の後だったのでクラスの大半は眠気がすごかったです(^\_^)〜 熊本城はそんなみんなの眠気を吹き飛ばすほどの感動を与えてくれました。築城の名手・加藤清正が築いただけあって、壮大で堅固な趣を今なお感じることができました。天守閣は復元されたものだが、櫓はいくつか残されており、とくに大きな宇土櫓を見るだけでも、ここに来てよかった(\*^^)v と思えるほどのすごさがありました。

ガイドさんの詳しい説明のおかげで、物の違った見方ができ、一段と楽しい熊本城見学ができたと思います。感謝しています。（西口 輝）

## 長崎原爆

私たちの三日目の午前中は、長崎での平和学習でした。原爆資料館では、語り部の方の話を聞くことができました。原爆のために肉親をなくされた語り部の方は、原爆が落とされた時の状況を私たちに話して下さいました。その時の状況は恐ろしいものでした。その後、資料館の展示を見て、原爆の起こした被害の大きさ、悲惨な状況に衝撃を受けました。そして、爆心地に行き、「平和の誓い」・「千羽鶴奉納」をしました。日本は、広島・長崎で、原爆の恐ろしさを体験した国です。二度と同じ過ちを繰り返さないためにも、原爆についてまず知ることが大切だと思いました。（多田果穂）



## 長崎市街地



雨がぱらつきました。広範囲でしたが、予定地は全てまわれました。が、集合場所へ帰るとき、路面電車の駅を一つ行きすぎてしまったのです。親切なおばちゃんが教えてくれた道を進むとエレベーターがあり、上へあがらなければいけませんでしたが、でもエレベーターが下りてくるのを待つ時間ももったいなくて、階段で上がることにしたのです。三百段以上。しんどかったです。でも高い所から見る長崎の街はとてもきれいでした。建物が丘

に群がる様子が、絵みたいでした。集合場所に着いた時刻は、ギリギリでした。電車に乗る前は余裕の時間だったんですけどね。はじめにカステラを買っておいてよかったです。(三木あかり)

## 吉野ヶ里遺跡



修学旅行最終日に行った吉野ヶ里遺跡。二千年前の世界を体験できる、と楽しみで仕方ありませんでした。まず見えてくるのは敵の侵入を防ぐ工夫である逆茂木です。次にシンプルだけれど実用的な竪穴住居。厳重な環壕で囲まれた北内郭。王が埋葬されているという北墳丘墓は大きく、甕棺が並ぶ様子は少し不気味です。また、「逃走中」という番組の舞台になったことをおすすめ内人さんも印象的でした。一時間という短い

時間の中で広い吉野ヶ里遺跡をまわるのはとても大変で、じっくり見ることはできませんでした。でも、教科書や授業だけでは分からないことが体験できてよかったです。(吉田紗季)

## 太宰府天満宮

大宰府天満宮では、まず神社の鳥居の前には触れるとその触れた部分が良くなるという黒い牛の像があったが、そこに至る参道でお土産を買うのに夢中で残念ながら全く触れる時間がなかった。神社の境内では、過去・現在・未来の3つの橋があったが過去の橋は振り返らなかったし、未来の橋は躓かなかったのできっとこれからの運気は良くなる(はず)。神社の本殿ではかなりの人がおみくじやお守りを買っており、中にはたくさんの韓国人の団体もいて、思っていたよりも規模の大きい観光地だと分かった。僕達白陵生は大学受験のために勉強に励むのが第一の目的なので、僕も買ったお守りの効力を信じつつ、日々の勉強を頑張っていきたい。(露口慶一)



## 中学生の活躍紹介

### 陸上部:金山理美(2-4)



近畿中学校総合体育大会陸上競技大会 8/7(日)  
 女子共通 1500m 4'44"64 4位  
 全日本中学校陸上競技選手権大会 8/20(土)  
 女子共通 800m 2'17"50(予選3組4位)



#### 少年の主張東播磨大会

#### 最優秀に鶴飼さん(白陵)

東播磨の中学生による「少年の主張東播磨大会」第10回ハートランド弁論大会(東播磨地域ビジョン委員会など主催、神戸新聞社後援)が20日、加古川市加古川町の県加古川総合庁舎であった。14中学の86人が応募、1次審査を通過した14人が臨んだ。水泳を通して自信が持て、将来の夢を見つけたことや、公明マナーを守れない大人への憤りなどを、保護者や学校関係者ら約170人を前に堂々と述べた。最優秀の「未来賞」には、父親の死をめぐり支え合う大切さを学んだことと発表した白陵中学3年の鶴飼英梨さん(15)が選ばれた。10月2日に県公館である県大会に、東播磨地区代表として出場する。優秀賞の「希望賞」には、高山茅さん(加古川市立平岡南中3年)と平尾翔也君(明石市立魚住東中3年)が選ばれた。(黒田恵子)



兵庫県大会

#### 優秀賞





昨年の9月1日、いつも通り私と父は一緒にもうダッシュでJR塩屋駅に向かいました。そして、私が「行ってきます。バイバイ」と言うと、父が「行ってらっしゃい」と返してくれました。これが、今でも鮮明に覚えている父との最後の会話です。

その日の夜、父が帰りの電車の中で意識がなくなり、病院に運ばれたという電話が家にかかってきました。想像もつかない知らせに母はあわてて出て行き、兄と残された私は膝から崩れ落ちそうになりながら、「朝あんなに元気だったお父さんが、どうして……」と混乱するばかりでした。

それから8日後、手術や私たちの必死の願いもむなしく、父は帰らぬ人となってしまいました。本当にあっけなく、母や私、兄を残して。

それまでの私は、父がいることが当たり前のもので、それを何とも思わずに生活していました。しかし、父の死を通して、父がどのくらい大きな存在だったかということを感じました。そして、急な別れは父のように病気ばかりとは限りません。三月に起こった東日本大震災のように、災害によって突然自分の大切な人を亡くしてしまうこともあります。そうした方々の心の痛みはどれほど深いものか、今の私には理解できます。その悲しみから立ち直るには時間もかかるし、簡単なことではありません。

でも今、私は毎日元気に学校に通っています。私には母がいるし、兄もいます。友達も私を励ましてくれました。いつまでも後ろを向いてはいられません。人という字は、人と人が互いに倒れないように支えあう形を表しているそうです。人はお互いに助け合って励ましあって、前に進んでいけると思います。私が元気であることが、母や兄を励ますことになると思います。父の死で、私は人は一人で生きているのではなく、多くの人に支えられているのだということがよく分かりました。

また、父は常々「知識はお金では買えない。学生の間はとにかく勉強をして、知識を増やさない」と言っていました。そして、中学受験する私の勉強に夜遅くまで付き合ってくれたり、中学の学校説明会や入学式などずっとそばにいてくれました。父は、私が父との楽しかった日々を思い、悲しみに暮れることを望んではいないでしょう。父との別れの日、今までありがとうという言葉とともに、これからの決意を手紙にしました。「これからは、お父さんがいなくてとても不安だけど、お父さんが教えてくれたことを胸に頑張るね。そしてもしお父さんに会うことができるなら、『よく頑張っているね』と言わせてみせるから、応援してよ」そして、その手紙を父の手に握らせたことを、私は一生忘れないでいようと思います。

今の私は自分のことで精一杯で、何もできません。だからこそ、父が望んでいたように学問のよって身に付けたものを、人の役に立てられるように志を持って社会に貢献できる人になること、そして多くの人に支えられていることへの感謝の気持ちを忘れずに、自分の未来を切り開くために前に進んで行きたいと思っています。

「お父さん、頑張っているから、応援してね！」

## 白陵生とともに学ぶ4



私が担当する「ふれあいルーム」は、生徒の皆さんがいろんな出会いを通じて助けあい、成長しあえる場になってほしいという希望を込めて名付けられました。その名の通り放課後になれば、同級生同士や先輩・後輩の絆が芽生える温かい雰囲気に包まれています。皆それぞれに個性や才能があり、また時には苦労もありつつ、仲間や理解者の存在に勇気づけられることも多いようです。

カウンセラーの仕事とは聖人が悟りを伝えたり、人生経験者がアドバイスしたりするといったものではありません。困難を抱える人の状況や可能性を冷静かつ客観的に考えつつ、一緒に解決策を探します。数学に例えると、公式や解法など基盤となる知識は身につけた上で、個々の応用問題に取り組むといった感覚です。数学ほど明確な答えは存在しないですが、基本的な対応を軸に解決へと繋がります。

私も中・高の6年間を本校で過ごした一人です。白陵で特に思い出深いのは、仲間や先生方との出会い、また柔道部の厳しい練習や、生徒会の体育委員長の任務です。個人的には大学受験の勉強はあまり好きになれませんでした。心理学をアメリカで学びたいと決意した大学時代は、思いきり自分の勉強に励みました。その執念が通じたのか、希望通りニューヨークの大学院に進学しました。勉強や観光や国際交流に励み、充実した楽しい毎日が過ごせました。

今後も生徒の皆さんの学校生活を応援するとともに、私自身も謙虚に成長していけるように心がけたいです。最近では中学生の来室が少ないため、ぜひ一度1階「ふれあいルーム」に来て下さい。特に中学生は大歓迎します。(スクールカウンセラー：杉岡)



こんにちは、皆さんは事務室がどこにあるか知っていますか。まだ知らない人は探してみてください。私達が直接話をすることは少ないですが、ちょっとした機会に皆さんをみていると、挨拶や行動、態度等は大人も顔負けで本当にしっかりしています。それも、誰かの強制ではなくこうするべきだと自分で考えて自然に行動しているように感じます。日本最大の野外音楽イベント、フジロックフェスティバルにこんな呼びかけがあります。—全員に気持ちよくフェスティバルを楽しんで頂くために、「自分のことは自分で」「助け合い・譲り合い」「自然を敬う」

その上で全員で創り上げていく—「楽しさ」は与えられるものでもなく、保証されるものでもありません。—楽しむためには、いかなる状況でも、きちんと頭で考え、それを実現することができる力が求められます。—というものです。皆さんの中で白陵での生活を本当に楽しんでいる人はそういうことを考え、行動しているように思います。私の中学時代と比べて、何歩進んでも追いつけないようなところを皆さんは歩いています。そんな皆さんのたどり着く先に何かがあるのか、楽しみです。いつか、見てきたものを聞かせて下さい。

(事務：藤井徳雄)



私が白陵にお世話になって、約九年半になります。学校の行事にあわせて、生徒たちが色々な面に頑張っている姿を見るにつけ、つい私の学生のころを思い出して心がホノボノと感じるときもあります。しかし、今年は東日本大震災又は十二号台風等大きな出来事があり、人の心が色々な形で表に現れ、情報から嬉しい心、みにくい心、悲しい心等が、もろに私たちにも見えたり、聞こえたりしてきました。お陰様で今こうして勉強や仕事ができることが感謝以外のほかは何もないと思うものです。私の一番好きな言葉は、素直な心で謙虚に物事を受け止めるように、私自身できる限りその「心」がもてるように、努力している次第です。現在の時代は、社会人も学生にも大変な時代であると思うのです。白陵生に、後悔先に立たずのように、今を悔いのないように過ごしてほしいと思うものです。まだまだ欠点だらけの自分ではありますが、常に、冷静に判断し、自我を除いていくよう努力していきたいと思えます。昭憲皇太后のお歌にある、「みがかずば 玉の光は いでさらむ 人の心も かくこそあらまし」のように、つまり邪念のない静かに澄んだ「心境」を持ち続ける人生を送りたいと思えます。みなさんは、白陵生であることに誇りに思い、白陵の先生方から、たくさんの色々な学びを受け、次のステップの土台として、がんばりましょう。私も若い諸君から多くのエネルギーを頂いて頑張っていきたいと思うものです。(事務：本間純司)



まさか自分に原稿依頼が来るとは思っていなかったもので、なにを書こうかとかなり悩みましたが、みなさんと接する機会があまりないので、この場を借りて私が普段している仕事について少し紹介しようかと思います。

まず、印刷が主な仕事になります。先生方が授業で使うプリントや、文化祭前には各クラブから出される冊子なども印刷します。あと、今読んでいるこの「若竹」も私が刷っています。毎回大内先生が「松原さん、今回はどの色にしようかな？」と若竹の表紙の色を決めに、事務室に来られます。最近の号とあまりかぶらないように、印刷した時にきれいに見える色にと、いつも悩みながら決めておられます。若竹を読んでいると、私が学生だった頃もこんなことがあったなとなつかしくなり、いつも楽しく読ませてもらっています。

印刷以外には各行事の準備、電話・窓口対応などを行っています。白陵に来て1年半になりましたが、まだまだ半人前なのでもっと頑張りたいです。

最後になりましたが、この白陵で友だちと楽しく、悔いの残らないように学校生活を送ってほしいと思っています。これからみなさんと接する機会を楽しみにしています。

(事務：松原理恵)



# 中体連(市内新人戦)

2011.9.30・10.1

## 男子バスケット

○白陵中 57-42 松陽中●  
●白陵中 39-66 宝殿中○

## 女子バスケット

●白陵中 16-67 宝殿中○

## 剣道

団体 ○白陵中 2-1 荒井中●  
●白陵中 0-4 宝殿中○  
●白陵中 0-5 松陽中○  
●白陵中 0-4 高砂中○  
●白陵中 1-4 鹿島中○  
●白陵中 0-2 竜山中○

## 柔道

団体 ○白陵中 4-0 松陽中●  
○白陵中 3-2 荒井中●  
○白陵中 4-1 竜山中●  
●白陵中 0-5 宝殿中○  
個人 60kg 3位酒井舜也・西野隼矢  
81kg 2位西澤賢一

## 野球

●白陵中 0-4 竜山中○

## サッカー

●白陵中 1-3 松陽中○  
●白陵中 0-4 鹿島中○

## 卓球

団体 ●白陵中 2-3 宝殿中○  
個人 ベスト4 三浦朋也・鈴木遼太郎

## 女子テニス

団体 ●白陵中 0-3 宝殿中○  
●白陵中 0-3 荒井中○  
○白陵中 2-1 高砂中●  
●白陵中 1-2 鹿島中○  
個人 岸本若菜・池田万里菜組 ベスト8

## 男子テニス

団体 ●白陵中 0-3 松陽中○  
○白陵中 2-1 竜山中●  
○白陵中 2-1 高砂中●  
●白陵中 0-3 宝殿中○  
個人 緒方駿悟・阿二慶次朗組 ベスト8

## 陸上

男子総合 3位/7校中 男子4×100リレー1位(松田・赤秀・井上・藤沢)  
男子2年100m 1位 松田恒輝 3位 井上優輝松 男子走幅跳 1位 松田恒輝  
男子共通200m 1位 藤沢祐也 中2 女子1500m 1位 金山理美